



## 森林ボランティア 「オホーツクの会」だより No.17

### 森林と湖で心と身体をリフレッシュ！！ 秋の森林散策 in オンネトー



10月8日（日）に行われた森林散策会に会員24名、一般25名の計49名が参加しオンネトー湖岸を散策しました。

出発点の野中温泉から歩き始めると間もなく火山活動の影響を受けながら成林した国内にも類のないアカエゾマツ群生林と、地表にコケが広がる原生的な景色に出会いました。そのなかを更に進むと目の前に紅葉に染まるオンネトーが広がっており、その美しさに思わず“素晴らしい”との声が上がリ、身も心も癒される散策となりました。

散策終了後は阿寒湖畔エコミュージアムセンターで火山模型の展示などを見学し帰路に着きました。

参加者からは“来年も来たい！！”との感想が多く寄せられました。

## アカエゾマツは“森の番人”

この季節でしか観ることができない「紅葉とエメラルドグリーンのおネトー」。

先輩や友人をお誘いして約2 kmの自然探勝路・森林散策会に参加しました。

総勢49名は4班編成。“森のプロ”森林管理局の方々の丁寧な解説と野中温泉のアイドル犬・ラブラドルのラブちゃん？の道案内で歩み始めた遊歩道は、自然の営みを邪魔しないよう遠慮がちな小道です。



湿原を抜けると、森の中には標高や日照、山の斜面など環境変化に応じて、さまざまな樹種が生育。とりわけアカエゾマツがみごとに生い茂っていました。

厳しい自然条件に耐えて生き抜くアカエゾマツには森の環境を整える力があって、トドマツ、エゾマツのマツ類、その後、マツの葉や枝、下草のゴゼンタチバナなど、苔が枯れて堆積して土地の層が厚くなり養分も増えてくると広葉樹などが生えてくるのだとか。

鬱蒼とした森の中で、苔むし朽ちたアカエゾマツはまるで“森の番人”のよう。深呼吸するとフィトンチッドの森の香りが疲れを癒してくれます。

時折、聴こえる小鳥のさえずりはアカゲラ？自然の懷に抱かれて下界の憂さもどこかに飛んで行きました。

(長南 幸子)

## 自然は物言わず謙虚で雄大

### オンネトー森林散策会に参加して

今年5月25日の植樹に参加をきっかけにオホーツクの会に入会し、半年余りが過ぎました。

山でボランティアに汗すると、今まで森林を守ってきた方々のご苦勞を自ら体験できました。6月18日にはカミネツコンで定植した場所で無事に育っている苗木を見つけた時は大きな感動を覚えました。



さて、10月8日はオンネトー散策会に参加させていただきましたが、ふれあいセンター、オホーツクの会の活動で、文字通り、山とのふれあいを20年ぶりに自分の人生に復活させることが出来ましたし、会の皆さんとのふれあいも童心に返って楽しませていただきました。

そこでは、初めて出会う人も（犬も）通りすがりの人も、生き生きと笑顔や挨拶を交わし、野鳥、枝葉、こもれび、辺り一帯に満たされた緑と水のマイナスイオンによって、心身が浄化されたことと思います。自然は物言わず謙虚で雄大で、そんな自然から学ぶことはその都度とても多く、自然を大切に思うことは自分たちが生きる社会を想うことに等しいとも感じました。山の素晴らしさを一人でも多くの人に知ってもらいたい、これからもずっとオホーツクの自然を育む仲間の一員となっていこうと、静かなオンネトーの森の景観を胸に焼き付け、心に誓いました。

クツワダ  
(轡田 恵美)



オンネトー散策の前の風景



散策路のアカエゾマツ群生林



1 班の途中の記念撮影



2 班の森林散策



3 班の森林散策



4 班の森林散策



阿寒湖畔エコミュージアムセンター



帰りに寄った「道の駅」

## 森林探検で育まれる信頼関係(その2)

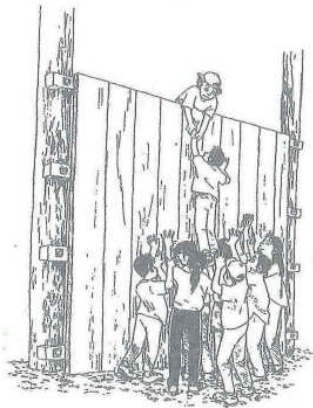
現代はパソコンなどが発達し、簡単な操作で何でもできる便利な時代になりましたが、面倒な人と人とのコミュニケーションは避ける傾向にあります。

子供たちの遊びも、昔のように自然の中を駆け巡ることが少なくなり、室内でテレビゲームなどバーチャルな世界で遊ぶことが多くなってきています。

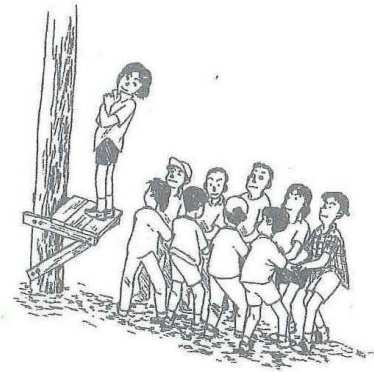
近年、学校では“いじめ”が日常化しています。子供たちは、いじめ対象からわが身を守るために、曖昧な言葉を選びながら会話をしているといわれています。

お互いに気配りばかりしているとストレスがたまり、やがて“キレル”ことにもつながります。

このような問題を克服し、子供たちの“健全な心”を育てる手法としてアメリカで開発されたのがグループ冒険活動による体験教育（プロジェクト・アドベンチャー）です。



<大脱走>  
全員が協力して壁を越えるゲーム



<トラストフォール>  
後ろ向きにスポッターの腕の中に倒れるゲーム(信頼あるのみ)

この体験教育はお互いに助け合うことで仲間の絆が深まり良好な人間関係が生まれることを狙いとしています。

そのため活動を始める前に「お互いが安心できる環境」をつくるための約束をしてもらいます。

それは、“**お互いの努力を最大限評価**”することです。

そのことより「心の壁」下げ、率直な意見交換のもとで冒険活動を成功に結びつけていくのです。

仲間の絆で冒険が成功したときの“心地よさ”は忘れることのできないものとなり、一生の財産となることでしょう。

信頼できる人に対しては素直に自分の思いを伝えることができ、また相手からの意見にも心を開くようになります。

信頼関係は新しい自分を再発見するきっかけにつながり、人が成長するために最も大切な土台になると言われています。

私たち大人にも大いに学ぶところがあると思いませんか？

## 新散策路ルートを草刈りました(第2回自主的活動)

去る9月17日(土)新たな散策ルートを切り開くために、オホーツクの森自然再生モデル林内にある「踏みわけ道」を利用して予定全長約300mの草刈りを行いました。(実際には370mありました)

当日は“ふれセン”のご指導、ご協力を頂きながらボランティア8名が参加し、草丈70cm程の笹や草を刈り払い新しいルートを開設しました。

今後もボランティアが作った散策路として、より利用しやすく整備を行い、多くの方々が訪れ自然を楽しんだり、植生調査など広く活用できるフィールドにしていきたいと考えていますので、皆様からのアイデアをお聞かせ下さい。

“ご協力ありがとうございました”



家族3人で草刈り

参加者名

(会員) 吉田事務局長、角夫妻、吉田正さん、  
三浦さん、矢田さん家族3名  
(ふれセン) 藤生所長、立野自然再生指導官



草刈りの様子



散策路の倒木の処理 (みんなで力を合わせて)

## “もっと森を知ろう”国際森林年記念写真パネル展

去る10月1日～16日まで北見市緑のセンターでパネル展が開かれ、延べ900名の市民が訪れた。当会からは活動目的や写真などを通じて活動内容を一般市民に紹介すると共に入会勧誘の呼び掛けも行いました。

また、吉田事務局長の木の实や枝などを利用してつくられた昆虫や動物の工作や角幹事が造ったミニチュアのウッドカヌーも展示され、多様な森の素材や木材の魅力を紹介しました。

更には、長谷川副会長とその活動仲間“どこ竹”の愛沢さんのご協力で竹トンボづくり体験や“ふれセン”との共同で行ったマイ箸づくり、種子とばし体験では普段接することが少ない竹や木材を素材とした工作づくり等に真剣に取り組む子供たちの顔が印象的でした。

最終日には“長南さん”に後片付けの応援頂き無事終了することができました。

訪れた市民の反応は好評で、来年もふれあいセンターとの共催で活動パネル展や森づくり講話などの開催を予定しています。



オホーツクの会を紹介する吉田事務局長



竹とんぼづくりを伝える長谷川副会長



ウッドカヌーについて説明する角幹事



オホーツクの会の展示コーナー

## 山の手入れの用語

「<sup>じ</sup>地ごしらえ」：苗木を植付ける時やその後の下刈り作業などの手入れがしやすいように、事前に地表にある笹や雑木や木の枝などの障害物を除去する作業

「<sup>した</sup>下刈り」：植えた苗木が雑草木に埋もれ 被圧されないように定期的に刈り払う作業



下刈

(参考：「<sup>したくさか</sup>下草刈り」とは農業用肥料を作るために林内の草刈り作業で「下刈り」とは別の意味・・・・・・・・・・森林百科辞典より)

「<sup>えだ</sup>つる切り・<sup>じよぼつ</sup>徐伐」：樹木を植栽後（10年程度）経過すると植栽木の生長を妨げる他の樹木やツルが繁茂してくるのでそれを取り除く作業



つる切

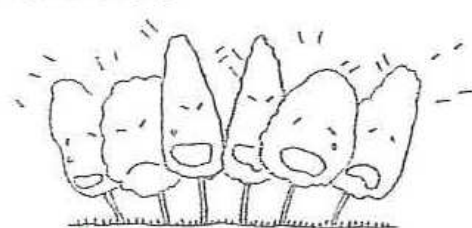
「<sup>えだ</sup>枝うち」：植えた樹木が生長すると、次第に植栽木の間隔が狭くなり、樹木の下側についている枝が枯れてくるため、不要となった枝を取り除く作業。

この作業は将来生産される木材としての価値を高めるため（枝は節として残る）と、林の中を明るくすることで地表の自然環境の改善を図るものである。

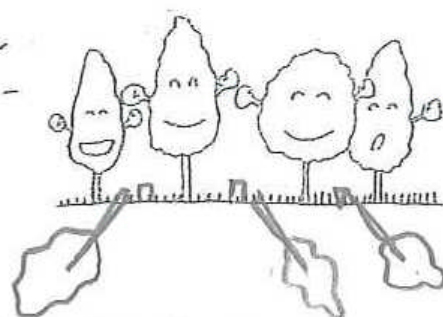


枝打ち

「<sup>かんぼつ</sup>間伐」：植えた木が成長し混み合ってくると、林全体が“もやし状態”に陥り正常な成長が期待できなくなる。そのため混み合っている木や形質不良な木を間引きすることで、良質な木材が生産できる林に誘導する伐採作業です。



間伐前



間伐後

## お知らせ

会員が4月からボランティア植樹や森林散策会等の行事を通じて24名増えました。

冬の森林散策会は、3月上旬頃川湯のポンポン山で予定していますが、詳細は役員会で決定します。(ポンポン山では、冬でもコオロギが泣いていて、地熱帯で大きく足踏みするとポンポンとまるで太鼓のような音がします。)

開催場所について他に希望等があれば事務局までご連絡下さい。



コオロギ(名称マダラスズ)



オンネトーの風景



ゴゼンタチバナ(オンネトー)



オンネトー散策路の風景



2011・国際森林年

お問い合わせ

北海道森林管理局  
常呂川森林環境保全ふれあいセンター内

森林ボランティア「オホーツクの会」事務局

〒090-0035 北海道北見市北斗町3丁目11-3

平日8:30~12:00 13:00~17:15

TEL 0157-23-2960

050-3160-6321

FAX 0157-23-2472